

---

---

# 定着で春の尾瀬を遊び倒す！！

## 赤倉岳・平ヶ岳・景鶴山

白井 達也

---

---

今年のGWは5連休！！余裕の定着で、尾瀬奥の山々をじっくり味わう山旅です。

●メンバー L 斎藤（亘）・白井

●2017年5月3日(水) 晴れ

●コースタイム

鳩待峠7:00→山の鼻8:00→猫又川二股  
9:33→国境稜線12:53→大白沢山13:20→  
国境稜線13:50→大白沢山先BC14:40  
累積標高+734m -439m 距離12km  
歩程7時間40分(休憩含む)

前日の夜、車で石神井公園を出発し、沼田某所で仮眠。6時前に戸倉の第一駐車場到着。乗合タクシーで鳩待峠を目指します。

峠の鳩待山荘前は除雪してありますが、周囲はまだ残雪がたっぷりです。ここからアイゼンを装着。登山計画書をポストに入れていざ出発です。山スキーの方々は、大半が至仏山の方に登っていきました。

ゆるやかな坂を下って山ノ鼻に着くと、はたして尾瀬ヶ原は一面の銀世界。これならどこでも自由に歩けます。はじめは錯綜していた踏跡も、雪に埋まったムジナ沢を越えるころから一本になり、程なく猫又川(水量多し)の二俣に到着しました。ここにはすでにテントが一張り。水も近くて良い天場です。

ここから我々は左俣と右俣とを分ける

尾根を登り、大白沢山の東側に出る予定ですが、左俣の右岸にもトレースがしっかりついています。スズヶ峰に突き上げる尾根に向かうルートのようなのです。

樹林の尾根(左俣のスノーブリッジを渡って取付く)は展望こそあまり望めませんが(1ヶ所燧ヶ岳方面の展望あり)、藪は埋まっています。ただ荷物が重い・・・(T\_T)。先行の4人パーティーは途中から左側の沢へ下りたようで、トレースが薄くなってきましたが、かまわず大白沢山の南東壁を右に巻き上がると、ようやく国境稜線に到着しました。大白沢山の西側は傾斜が急で下降困難とのことで、ここに荷物を置いて空身で頂上を往復します。

15分ほどで東西に細長い大白沢山の頂上に到着。薄い雲がかかっているものの、360度の展望に大感激・・・(荷の軽さにも)。北東には大きく平ヶ岳。左側には稜線の奥に中ノ岳の頭が覗いています。西には間近



にスズケ峰。右奥の稜線伝いには明日登る赤倉岳。その右肩に見えるのは巻機山でしょうか。南側にはもちろん至仏山。東を見



れば最後に登る予定の景鶴山。その左奥に高く燧ヶ岳（ピークは一つしか見えません）。ぐるっと北に戻ると、右手前には大きな山容の会津駒ヶ岳。ずっと奥に黒い肌を見せているのは会津朝日岳？とすると右隣の白く大きな山は二年前に縦走した丸山岳！当時の感動がよみがえります。写真を撮りながらふと見ると、ナ、ナント！電波が立っています。さっそく在京の島崎さんに登頂報告・・・（お忙しいのに<(\_ \_)>）

絶景の山頂を辞し、山の北側を巻いて行くと真っ白い冬毛の兎が一匹、じっとこちらを見えています。一瞬の後、兎は飛ぶように雪の急斜面を駆け上がっていきました。（なるほど一羽・二羽ね～）

なんとか15時前にBC適地に到着。風を避け、稜線の南の樹林の中にテントを設営。ボッカの疲れを力水で癒してから、三方境のジャンクションピークまで偵察に行くと、意外と近い赤倉岳に一安心。好天も確信して早々に就寝です。

●2017年5月4日（木） 快晴

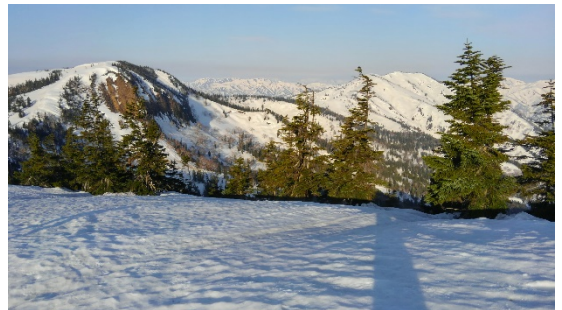
●コースタイム

BC6:05→無名JP6:10→スズケ峰6:50→スズケ峰下7:00→赤倉岳8:30→下降開始9:15→稜線10:40→BC11:45

累積標高+745m -736m 距離9km

歩程5時間40分（休憩含む）

本日の予定は赤倉岳往復のみ。5時起床でぼやぼやしていると、下からスキーをはいた二人パーティーが登ってきました。聞けば二股にテントを張って、平ヶ岳をピストンするとのこと。沢を詰めて来たようです。昨日の夕方、JPで会った二人組も、平ヶ岳を往復して下山すると言っていたので、秘境平ヶ岳も今日は大変な大賑わいになりそうです。



のんびりと6時過ぎに空身で出発。快晴の空の下、スズケ峰を一気に超えて赤倉岳への分岐まで小一時間。トレースはありませんが、地図とGPSで方向を定めてコルに向かって雪の樹林を下ります。すると途中でスノーシューのトレースを発見。やはりこの時期、人は入っていますね～。

コルに着くと樹林を抜けて、尾根の全貌が見えてきます。雪がないときは猛烈な藪尾根なのですが、今は真っ白な一枚バーンです。山スキーをやる方にはたまらんでしょうな～！右に目を移せば、去年亘さ

んと登った水長沢の源頭に、朝日が当たり始めています。

広い尾根を一気に登ると、もうそこは赤倉岳の肩。ふと南側を見ると、遠くの白い山脈は八ヶ岳方面？とすると左奥は南アの北岳付近？あれ、甲斐駒の三角錐は・・・さすがに遠くて良くわかりません。が、そのまた左は！どなたもご存じ、秀麗富士山です。少し前まで上州武尊山に隠れていたようです。

頂上はもう目前。と、その前に左右にスパッと切れ落ちたナイフリッジが・・・雪が締まっているので不安はありませんが、ちょっと緊張します。最後に、割れかけた雪稜をエイッと飛び越えると、山名板も何にもない頂上に到着しました。でも人工物のないピークの周囲は、見渡す限り山ばかり。さすがはマイナー12名山の一角です。



大きな平ヶ岳から稜線伝いに目を移すと、オ～！中ノ岳の雄姿が！！さらにたどれば越後沢山の右に八海山。あれ？下津川山との間に見えるのは！ネコブ山か！！小沢岳の左は、2年前に下ノ滝沢から苦労して登った巻機山。振り返れば至仏山の楯俣側。5年前に足が棒になった前深沢の源頭が影に沈んでいます。それにしても急だな



～！ここでまたまた島崎さんに登頂報告。  
(何度も<(\_ \_)>)

ところでトレースはまだ先に続いています。念のため隣のピークまで行って見ると、まだまだ先まで・・・？ここまで来ると眼下に奥利根湖を望むことができます。(ポートは見えませんでした)

このピークで遅い朝食をとっていると、単独の男性が到着。かなりのベテランとお見受けしましたが、朝早く山ノ鼻の小屋を発ってピストンとのこと。いやはや、その体力。あやかりたいものです。

戻りも快調。ただコルまでは日陰が無いので暑くて・・・雪もだいぶんかかってきま



した。稜線まで戻ると、あれえ？空に虹！よく見ると雲だけ虹色に・・・彩雲？これは瑞雲。吉兆です！

帰る道すがら、すれ違う人はみな一様に平ヶ岳からの帰りです。この時間に下山となると山ノ鼻からのピストンとは思われず、相当数のテントがこの一帯に張られていたものと思われます。（8張りほど確認）平ヶ岳は夏より今がシーズンかい！

テントに帰るとまだ昼前！登頂成功を祝いビールで乾杯。マツタリと酒・つまみなど用意しているうちに、亘さんはサクサク雪をほじってテーブルを作成。マットを敷けば宴会場の出来上がり。日が傾くまで楽しみました。



●2017年5月5日(木) 快晴

●コースタイム

B C 5:05→白沢山6:20→平ヶ岳7:45→下降開始8:30→B C 10:45→移動開始12:15→大白沢山先稜線12:50→景鶴山下14:05  
累積標高+1019m -1024m 距離13km  
歩程9時間（休憩・B C 撤収含む）

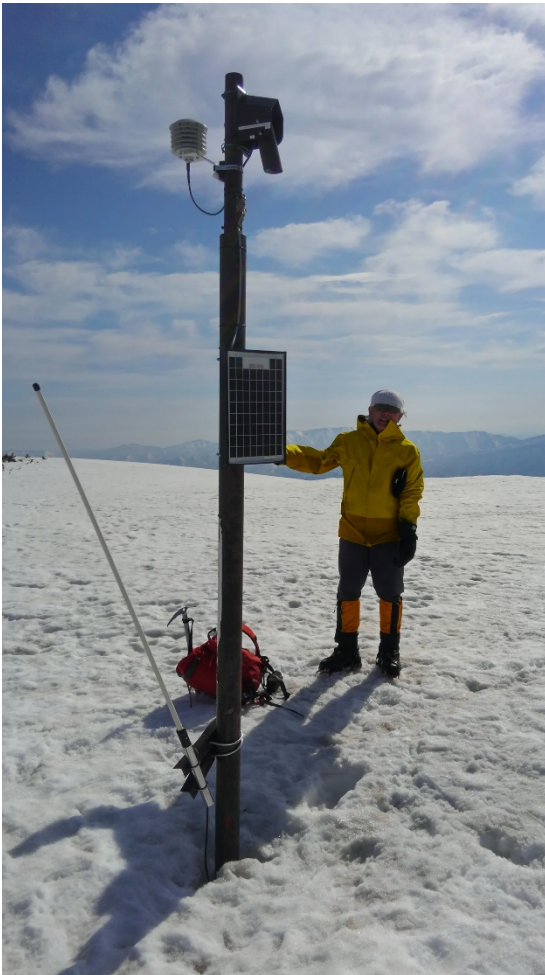
今日も快晴。夜明け前の鳥の声で起床です。アイゼンが効くうちに距離を稼ごうと、コーヒー1杯で出発しました。

しっかりとした踏跡を一旦下り、登り返して樹林帯を抜けると、広い真っ白な斜面が目に入り込んできます。でもまあ踏跡の多いこと！広い斜面一杯にデブリのようにポッコンポッコンに掘れています。ふと後ろを振り返ると、今日は一転、後続の登山者の姿は一人も見えません。こんなに良い天気なのに・・・？



白沢山を越えると、後は平ヶ岳頂上へのラストスパート。昨夏は泣いた最後のツメも、今回はキックステップでぐんぐん高度を上げていきます。頑張ること1時間ほどであっけなく頂上に到着しました。

だあれもない頂上には、何かの調査用の機器（太陽光パネル着き）を取り付けたポールが一本立っています。去年からあつ



たのかな？頂上大雪原からの展望は、北には初見参の荒沢岳が雪をたっぷりつけて屹立しています。その左に大きく越後駒ヶ岳。その左手前、兎岳の上には中ノ岳。長い国境稜線の奥、利根川の源流大水上山



の後ろには八海山の三山揃い踏み。なんとも豪華です。ただあまりに雪原が広すぎて、ちょっと迫りに欠ける気も・・・。

風を避けて三角点付近で朝食をとっていると、ようやく登山者の姿が現れました。丹後山からの縦走で、劔ガ倉山のナイフリッジがメチャクチャ怖かったとのこと。ご苦労様です。結局本日平ヶ岳で会ったのは、この3人パーティーだけでした。

さくさくBCに戻るとまだ11時前です。明日の天気は下り坂の予報なので、景鶴山の近くまでテントの移動を決断。昼すぎに出発して大白沢山の北側を巻いていきます。今回は大白沢池（雪で真っ白ですが）付近まで下りて、なるべく平らなところを選んで行きましたが、これが大正解。いくらかも登り返すことなく大白沢山先のコルに到着しました。

天場適地を探しながら、小さなコブをふたつ越えると、今山行初めての赤布が出現。何かあるのかと周囲を捜しますが、これといったものはありません??ま、とりあえず景鶴山はすぐ先に見えるので、ここを最後の天場とすることとします。

まずは、日当たりの良い雪の斜面を削ってベンチを作製。疲れのたまった足をアイシングしつつ、持ち上げてきた水物の残りを片付けて、明日への英気を養いました。



●2017年5月6日(土) 晴れのち曇り  
時々小雨のち晴れ

●コースタイム

B C 5:40→景鶴山6:45→B C 7:25→下降  
開始8:00→カップ山8:45→八海山10:05→  
山の鼻12:15→鳩待峠14:25

累積標高+825m -1116m 距離13km

歩程8時間45分(休憩・BC撤収含む)

今日の景鶴山も空身でピストンなので、少しゆっくり出発です。景鶴山の肩まではあつという間に到着。ここからもカップ山方面(南側)に下りられそうです。300名山の景鶴山なので、かなり人が入っているかと思っていましたが、意外と踏跡は少なめでした。

景鶴山の西端は岩が立っているので敬遠し、しばらく北側を巻いていくと、いきなり稜線に向かって上に伸びる踏跡を発見。かなりの急登です。一步一步キックステップを決めて、ピッケルを支えに登りますが、緊張で時間が長く感じられました。

稜線に出ると岩のピークが三つ在りますが、どれも同じような高さで、おまけに藪で展望もあまり利きません。(西上州の藪岩稜みたい)一つずつ登ってみましたが、結局最初に稜線に突き上げた左のピークが頂上と判明。(山名板あり)この狭い頂上からは竜宮小屋方面に展望がありますが、藪のおかげで今ひとつかな～。でも藪が無かったら、南側はスッパリ切れた岩壁なので、それも怖いかも・・・。

風も出てきたので早々に退散。先ほどの急登部分は前を向いては下りられず、後ろ向きになって、さっき空けたバケツを壊さないように慎重に下ります。4年前に、5

人で竜宮小屋から景鶴山登頂を目指したことがありましたが(直前の大雪で断念)、こりゃ結構大変だったかもしれません。

BC撤収後、カップ山を目指して沢を下降。完全に雪で埋まっていたまったく問題ありません。雪原を抜け、また樹林をゆるやかに登り返すと、カップ山の頂上雪原に出ました。上から見ると、丸い雪原をぐるりと樹林が取り囲んでいる、ユニークな山容が良くわかります。

ここからは、進路を東南に変えて八海山を目指しますが、八海山はカップ山とほぼ同標高。下っただけ登り返しになります。滝ノ沢(この沢の下降はちょっと・・・)の奥には竜宮小屋が見えているのに。(T\_T)それでも時折見える尾瀬ヶ原の景色を慰めにひたすら登ると、意外と早く樹林の中のピーク八海山に到着しました。頂上は南側に展望があり、山ノ鼻も見えています。生ビールももうすぐ～！ヽ(^o^)ノ

ここからは、南に延びる尾根を地図とGPSを頼りに下り、背中アプリ田代を目指します。ところが天気も下り坂。見通しは利くものの、パラパラ雨が降り出してきました。気がせくもので、尾根を捨てて雪に埋まった沢を下降。予定よりだいぶ手前になってしまいましたが、首尾よく田代の奥に降り立つことができました。

ここからは、背中アプリ沢に沿って林の中をゆるやかに下降し、水の流れが出てくる二股の手前で沢を渡ります。尾根を回り込むように進んで、もう一本沢を渡ると林を抜けて、尾瀬ヶ原の大雪原にひょっこり出ることが出来ました。空を見上げると、さっきの雨が嘘のような青空が覗いてい

ます。ほっとした気持ちで、ところどころ黒く解けかかった雪原を、グシャグシャとさらに進むと、しっかりとした流れの猫又川にぶつかります。さて、どこを渡るのかな～と、少し上流を捜しますが・・・橋はおろか、スノーブリッジもありません！！

渡渉？（沢靴下は持ってきましたが）こんな水量では三条ノ滝まで流されそうです。小屋はすぐ目の前なのに～！ふと見ると、太い倒木が一本川を跨いでいます。こ、これですか・・・？（・・；文献では「スノーブリッジが落ちているときは倒木を渡る」とありました。もっと可愛らしい橋のイメージでしたが、これはまるで太鼓橋。重荷を背負って、立って渡るのはとてもじゃないけど怖いので、跨ってみますが進めません。仕方なく、中腰で木の上に正座するような感じでずり上がります。途中で斜めに張り出している枝を抱えて、反対側に立てば対岸の上に到達。慎重に少し進んで、下

の倒木（みんなアイゼンを履いたまま踏むのでボロボロ）に降りれば終了点です。

今回最大の難所を何とか突破し、とりあえず至仏山荘に転がり込んで、生ビールを大ジョッキでグビリ！うう～～！たまらん！！ヽ(^。^)ノ 勢いで、図々しくも支配人の！さんに戸倉の民宿（**旅館山びこ**）をご紹介いただき（電話までかけていただいた）大感激！！

初夏のような日差しの下、4日間続いた好天と絶景、大量の残雪に感謝しながら（おいしいビールにも）、鳩待峠に向けてのんびり歩を進めました。

(^。^)y-。o○

●2017年5月3日(水)～6日(土)

トータル距離48km

累積標高+3322m -3322m

歩程31時間5分（休憩含む）

